

平成25年度
私立学校初任者研修 関東地区千葉県研修会
実施報告概要

千葉県の本年度初任者研修会は6月18日（火）～20日（木）の3日間、千葉市のホテルグリーンタワー幕張で開催され、93名が参加した。

1日目には、開会式に続いて、千葉県私学団体連合会会長で、学校法人市川学園、古賀正一理事長学園長による「グローバル時代における私学の役割と気概」では、私学の教員としての自覚をうながす講演が行われた。

次に、木更津総合高等学校、真板竜太郎副校長と東葉高等学校、栗林福子教頭による「専任教員の職務」では、私学をめぐる厳しい社会情勢を意識させられる講演が行われた。

続いて、千葉県警察本部、遊間千秋上席相談専門員による「問題を起こす生徒の理解とその対応について」と題する講演は、問題行動を起こす生徒への対応など、生徒指導をめぐる具体的な内容であった。



その後、自由討議が行われ、生徒指導上の問題点などが話し合われた。

次に、参加者及び運営委員を交えて夕食を兼ねての経験交流会が催された。限られた時間ではあったが初任者にとってはコミュニケーションの場として有意義なひとときとなった。

2日目は、まず元国内航空会社客室乗務員でイメージコンサルタント通訳ガイドの日野聖保子氏による「社会人の為のビジネスマナーについて」をテーマに、あいさつや電話応対など、社会人としての基本的なマナーを実際に体を動かして実践し、コミュニケーションを学ぶ講義と実習を行った。

続いて、千葉商科大学附属高等学校、遠藤行巳副校長と成田高等学校、田中康之教頭による「学習指導」の研修が行われた。授業こそが教師の基本である、という教育の原点を考えさせられる講義であった。

午後からは、「ホームルーム（学級）経営」で、聖徳大学附属女子中学高等学校、萩原昇副校長と千葉明德中学高等学校、宮下和彦教頭から指導を受けた。



その後、昨日に引き続いてグループに分かれての自由討議が行われた。議題は「自分たちの理想とする私立中学・高等学校を、千葉県内に開校させること」で、各自の教育観・学校観・プラン力などが試される内容である。受講者たちは、夕食を挟み、正規の研修時間である夜8時半を過ぎても熱心に話し合いを続けていた。

3日目は、前日の各グループによる「理想の学校」の発表が行われた。前日の夕方から夜まで話し合われた成果を、指導員および他グループの前でプレゼンテーションを行った。

閉会式では、当研究所の山路進主任研究員による研修会の総括を交えた閉会挨拶の後、参加者代表に修了書が授与され3日間の研修会は終了した。